

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4271402374		
法人名	有限会社アプリーレ		
事業所名	グループホームあさひが森		
所在地	長崎県南島原市布津町甲489番地		
自己評価作成日	令和3年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、代表者が長年、地域の保育園を運営しており、保育園児との交流が気軽に実施できる。利用者さまも年少者との交流を喜び、楽しみにしている。また、芝生付きの東屋を、お茶の時間のおやつタイムに利用し活用している。昨年からのコロナ感染で、毎年開催していた「あさひが森のつどい」も中止、また地域の祭礼も中止となって、地域交流ができない状況となっているのが残念ではある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長、管理者、職員数名が近隣に居住しており、日頃から地域との顔馴染みの関係性を持ち、設立当初から15年以上に渡る様々な交流を通じた地域との信頼関係がホームの強みとなっている。また、緊急時には近隣に居住の看護師が即座にかけつけられるよう態勢を整えている。毎年、「あさひが森のつどい」を開催していたが、コロナ禍で中止を余儀なくされ、また、地域住民参加の避難訓練もできない状況であったが、11月の地域合同避難訓練では地域住民にも参加を求め開催する意向である。管理者は入居者の病院受診同行のほか、入居者にとっての馴染みの美容室利用や墓参り等、入居者本人の希望に沿った支援に取り組んでいる。ホームでは同法人の保育園児と交流する機会を設け、入居者と園児が触れ合うことで入居者の喜びや楽しみに繋げている。今後も地域との積極的な交流により地域に根差したホームの運営と入居者へ支援に繋がるのが大いに期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あさひが森A

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回の職員会議で理念を唱和し共有、実践している。	設立当初に作成したあさひが森の倫理綱領と法人理念を玄関に掲げ、月1回の職員会議で唱和している。理念のもとで入居者支援の実践を再確認、振り返りを行い、職員への意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とはいかないが、地域の方とは合同避難訓練等で協力関係にある。昨年は中止したが「あさひが森のつどい」には、地域の老人会を招待して交流していた。	コロナ禍により以前のような地域住民との交流はできていない。現在、地域住民に対し11月に予定している地域合同避難訓練への参加を呼びかけている。施設長、管理者、職員は近隣に居住しており、日頃から地域との顔馴染みの関係性を持ち、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方の入所も多く、地域の認知度はできている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、利用者の健康状態等の報告も行い、職員会議では推進会議での審議内容の報告もなされ、ホームのサービス向上に活かしている。	運営推進会議は市介護保険課職員、家族、地域代表、布津駐在所職員が構成メンバーとなり、ホームにおける入居者と職員との会話を報告したり、新型コロナウイルス感染症対応の現況報告、計画作成担当者より入居者の体調等の変化、身体拘束の状況等詳細に報告し、各メンバーから意見を聴取し、支援に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターから空室状況の問い合わせも兼ねた情報交換はある。本年は、市職員との連携で事業所内での利用者・職員コロナワクチン全員接種が実現した。	運営推進会議の構成メンバーである介護保険課職員と会議を通じて意見や相談のほか、介護ロボット導入等、助成金などの各種制度について情報交換している。コロナワクチン接種に関して連携を図り、また、地域包括支援センター職員には空床状況を知らせる等協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で話し合い、理解を深めている	ホームでは身体拘束に該当する行為は行われていない。身体拘束廃止についての指針やマニュアルを作成し、ユニット会議で話し合う機会を設けている。また、運営推進会議で身体拘束や虐待についての報告を行っている。	身体拘束適正化検討委員会の開催状況が分かりづらい。例えば指針等で運営推進会議を活用する旨を明確に位置づけると共に当該会議録を残し職員にも周知するなど今後の取り組みに期待する。また、身体拘束や虐待など必須の研修は年間研修計画として実施時期を決めるなど、今後の取り組みに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用している利用者さんがおられるので、活用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解し納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中、面会できないことが多い。家族がホームに来られた時には支援記録に目を通してもらって、要望をお聞きしている。	コロナ禍で面会を制限していたが、現在は家族との面会を玄関でできるよう緩和し、面会時に意見や要望を聞き、面会以外は電話を通じて意見を聞き運営に活かすよう努めている。職員は入居者との会話の中で得た新たな情報を申し送りノートや業務記録に残し、職員間で情報共有し、必要に応じてケアプランにも反映させ入居者支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回開き、お互いに意見交換している。	月1回の職員会議を通じて職員は入居者支援に関する意見や提案を出し、実践に結び付けている。管理者は職員の家庭のことを配慮した勤務シフトの作成を工夫し、職員が安心して働ける環境作りに努めている。職場環境を整備し、職員がやりがいを持って入居者支援を実践し、入居者が安心した生活が送れるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中、対面の研修がなくなったが、必要な場合、個別に受講をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中、グループホーム連絡協議会の対面での交流はない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やご家族のお話をよくお聞きすることが大切。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	はじめの不安を受け止め、安心感をもってもらえるような会話を心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困りごとを親身になってお聞きするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの会話を交わして、本人ができることはしていただき、できないことは一緒に行うようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの職員の話を聞いていただき、互いに理解を深める。家族と情報交換しながら、利用者さんを支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あさひが森便りを送る際、ご本人の様子もお知らせする。コロナ禍の中面会できないが、できる状況になれば、お茶をだし、ゆっくりしていただく。	コロナ禍で交流を制限し、馴染みの人や場との支援は困難であるが、ホームと同法人保育園との交流がでている。入居者が園児と接する際、普段以上の喜びや満面の笑みの様子が窺える。また、職員自身も喜び、笑い、安心することができている。管理者を中心に馴染みの美容室の利用や墓参り等、入居者本人の希望に沿った支援に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行もあり、利用者同士の関わり合いは減っている。危険があるときに、利用者さんが職員を呼んでくださることはある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に、ご家族の訪問もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時には、利用者・ご家族の希望をお聞きする。職員間で情報共有する。	職員は日々の介護実践を通じ、本人との会話の中からその方の思い聞き意向を汲み取っている。意向の把握が困難な方には家族との面会時や電話連絡を通じて家族から意向を聞き検討している。把握した入居者の情報は職員間で共有し、必要な内容はケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取り、入所時サマリーを共有する。家族、ご本人の情報から、生活歴を把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんのその日や前日のバイタル他、日常生活の記録を把握すること。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員、看護師を含めて意見交換を行うことで、よりよい介護計画を作成するよう努めている。	担当職員が主に入居者個々の情報を収集し、職員間で情報を共有している。入居者の思いを把握すると共に家族の意向を聞き取り、記録に残して次回のケアプラン見直し時に反映させている。プラン立案時は介護支援専門員が看護師や担当職員へ現状を聞き取り、意見を取り入れてケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの心身の変化について日々の情報共有が大切。毎朝、夜勤者からの申し送りから一日が始まる。職員間で情報共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況に応じて、柔軟に対応している。(福祉用具のリース、購入等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中でもあり、地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医をできるだけ継続受診している	ホームは協力医と連携し、月1回入居者数名が訪問診療を受診している。専門医療機関の受診が継続的に必要な入居者や以前からのかかりつけ医を継続して受診する方は管理者が中心となって受診に同行している。管理者が直接医師からの説明や検査結果を聞き、入居者の医療上の状況を把握して家族へ受診後の報告を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の看護指導時、利用者さんの変化を伝え、指示・助言をもらい日常の介護に活かす。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となられたときは、管理者が病院に病状お伝えし、病院連携室と情報交換する。ホームに早期に帰られるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にまずご家族と終末や看取りのことを含めて話し合う。体調不良になられた時も家族とよく話し合うこと。	入居時に看取りについて本人や家族の意向を聞き取り、ホームの方針を説明している。看取り期には医療連携看護師を中心として主治医との連携と指示を仰ぎ、家族と共にその方らしい最期が看取れる支援に努めている。ここ数か月の間に数名の看取り支援を実施し、家族も安らかな心で入居者を看取ることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず、利用者の状態を把握する。職員は状況に応じた対応ができるように、連携看護師の指導を受ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	全館禁煙。年1回の消防署の立ち会い避難訓練の実施。地域自治会との連携。月に1回、防火管理自主点検表を記録。	コロナ禍で現在消防署立会いや地域住民参加のもとでの避難訓練はできないが、年2回の自主訓練を実施している。また、地域住民に対し11月に予定している地域合同避難訓練への参加を呼びかけている。	11月の地域合同避難訓練に地域住民の参加による避難訓練が実施できると共に、更に夜間想定避難訓練を実施できることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その場面に応じて、不快な思いをされないように気をつけて対応している。	職員は入居者を尊重した呼び方に留意し、入居者を名字や名前で「～さん」で呼んでいる。入居者の排泄失敗が見受けられた際には他者には気付かれないよう配慮している。居室への入室には入居者が在室、不在であっても必ず入室する際に本人に理由を伝え、入居者によっては本人に同行を求めて一緒に入室する等対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で自己決定することができない方に対しては、なるべく自己決定できるように話をすすめる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に応じているが、お話が長くなるときは、事情を伝え退室するときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ洋服等を更衣できるように支援する。意思表示できない方には、声かけしその人らしくなるように支援する。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの高齢化で準備等ができなくなっている。食事が楽しみになるようにメニューの紹介をしたり、お口の体操して誤嚥を防ぐ等している。	各ユニットの調理担当職員が昼・夕食の調理を担当している。食材は管理者と調理担当職員が1日分の食材を近隣の店舗より新鮮な食材を毎日購入している。旬の野菜を中心とした食事の提供、入居者が罹患している疾病による主食の摂取量に配慮したり、食事介助時にミキサー食を一口毎にメニューの説明をする等食事を安心して楽しむ支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの体調に応じて食事量、食事形態の調節をしている。誤嚥が心配な利用者さんにはトロミ食、ミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。自力でできるかたは見守り、できない方へ介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、職員全員で共有している。利用者一人ひとりの排泄の特徴を理解し、自立に向けた支援を行っている。	入居者個々の排泄状況を全職員が把握し、個別の排泄支援に努めている。排泄に関して自立している入居者にはその能力低下の防止に努め、維持できるよう支援を行い、入居者ができる限りトイレで排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを理解し、個別にバナナ、牛乳、芋類を提供。便秘薬等も使用して調節する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・水・金の午後に入浴日を設定。特に不満を聞かない。一人ひとりの希望や体調に合わせて、シャワー浴、清拭等を行っている。	入浴は週3回、曜日を決め支援している。入浴を拒否する方には無理強いせず、数日間入浴できない状況の場合に職員が言葉かけを工夫し清潔保持を考慮しながら支援している。本人が体調不良の場合には清拭に切り替えたり、シャワー浴を実施する等入浴支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	前回と変化ないか、処方箋で確認する。症状の変化については、日々申し送り、情報共有する。薬についての疑問はその都度確認する。配薬事は必ず呼名確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを把握し、洗濯物畳みやトレイ拭き、紙袋作り等をしていただき、役割を果たす喜びを感じていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染の不安あり、外出していない。	コロナ禍により現在は外出支援は困難であるが、職員が試行錯誤してその代替となるレクリエーションを工夫している。バスガイド経験がある職員が雲仙からホームまでバス旅行を設定しガイドしながら疑似旅行体験をしたり、ホームの庭先で紫陽花やコスモスの花を見て楽しむ等の外出支援をレクリエーションで代替し入居者のストレス解消に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理している利用者はいない。買い物の希望あるときは支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、日差しの調節をして、集まりやすい雰囲気を作るようにしている。食堂の外には草花を植えて眺められるようにしている。	フロアは日当たりが良く、職員と入居者が共に作成した壁画を飾り、明るい共用空間となっている。紫陽花やコスモス等の大きなちぎり絵の壁画を廊下に飾り、フロアや廊下は多彩な作品が並び訪れる人を和ませる。職員は日々清掃を行い、感染予防対策として手すり等は次亜塩素酸水で拭き取る等清潔で安心して寛げる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、新聞を読んだり、テレビを見たり、新聞折りをしたりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を壁に貼ったり、使いなれた椅子や小机を使用し、居心地よくすごせる工夫をしている。	居室は入居者が使い慣れたものを持ち込んで在宅生活の延長として生活ができるよう支援している。ソファの配置や家族の位牌の持ち込み、自分で作った作品を飾り付ける等、その方らしい個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがついており、バリアフリーになっている。居室では排泄が安全にできるようにベッドなどの配置を工夫している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あさひが森B

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議にて、全員で唱和、再確認し、意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流は困難。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解等、家族の話を聞いて支援の方法をつたえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での記録を玄関に置いて公開し、共有しサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の方が、会議に出席されておりホームでの取り組みをお伝えしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B棟には自立支援事業等の利用者さんはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度の職員会議に要望、意見、提案を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用して意見を聞く機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励し、研修受講をすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、交流がない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず利用者本人、家族の要望をお聞きすることが大切。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さん、家族が話しやすい雰囲気作りをする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めの不安を受け止め、安心できる環境を整える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとの間に壁を作らず、その上で尊敬の念を持つ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得ながら、利用者さんを支えて楽しく生活支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室に行けるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作り。利用者さんの間に職員が入り、一緒になって、コミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族との交流もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話をお聞きして、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄、食事の摂取状況を把握して、リズムよく生活できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、利用者の情報を共有し、看護師、職員の意見をまとめて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活支援状況に記録、申し送りし、連絡帳にも記録し、情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児との交流。それもコロナ禍で困難。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の継続し、適切な医療が受診できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護指導時に、利用者さんの日常の気付きを報告し指示を受ける。それを情報共有する。受診につなげる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、管理者から状態説明する。コロナ禍のため面会できないが、早期退院できるよう支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	7月は、2名の利用者さんの看取りとなった。ご家族が、あさひが森で終末を迎えられてよかったとの言葉がありよかった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の変化を見逃さずに記録することが大切。初期対応は看護師より指導ある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害が自分ごとにならないことが多いが、訓練を継続し、地域との協力関係を重ねるように務める。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性、人格を尊重する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をお聞きして、寄り添えることがあれば寄り添う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになっていることが多々あるが、できるだけ会話し希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は高齢となり、困難なことが多い。盛り付け、配膳の心配りを大切にし、楽しく食事できるようにする、職員の声かけも重要と思っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の病気の状態に応じて利用者さんに合った食事量や水分量を把握し支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず実施している。職員の見守りや介助が重要。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、情報を共有する。時間をみてトイレ誘導し声かけする。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取に注意する。便秘薬の調節を実施したり、運動を取り入れる等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回(月・水・金の午後)入浴実施。本人の体調を考慮し支援する。入浴ができない時は清拭する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんのペースに合わせて休んでおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い、薬が変わった時は確認し情報共有する。服薬時、必ず呼名確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんがそれぞれテレビ鑑賞したり、好きなように過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で交流は困難。外出できていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理されてはいないが、自分の財布を持っている方が1名おられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っている方が1名おられる。家族の声を聞きたいとの願望あるときは、電話する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように、花や絵を飾る。空調も調節する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳でくつろぐ方、テレビを見る方、本を読む方 思い思いに過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の持ち込みの品を自室に飾り、安心して過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に大きくお名前を掲示し混乱しないようにしている。歩行器、車椅子で移動の際、安全に移動できるように物の配置を考えて、配慮している。		